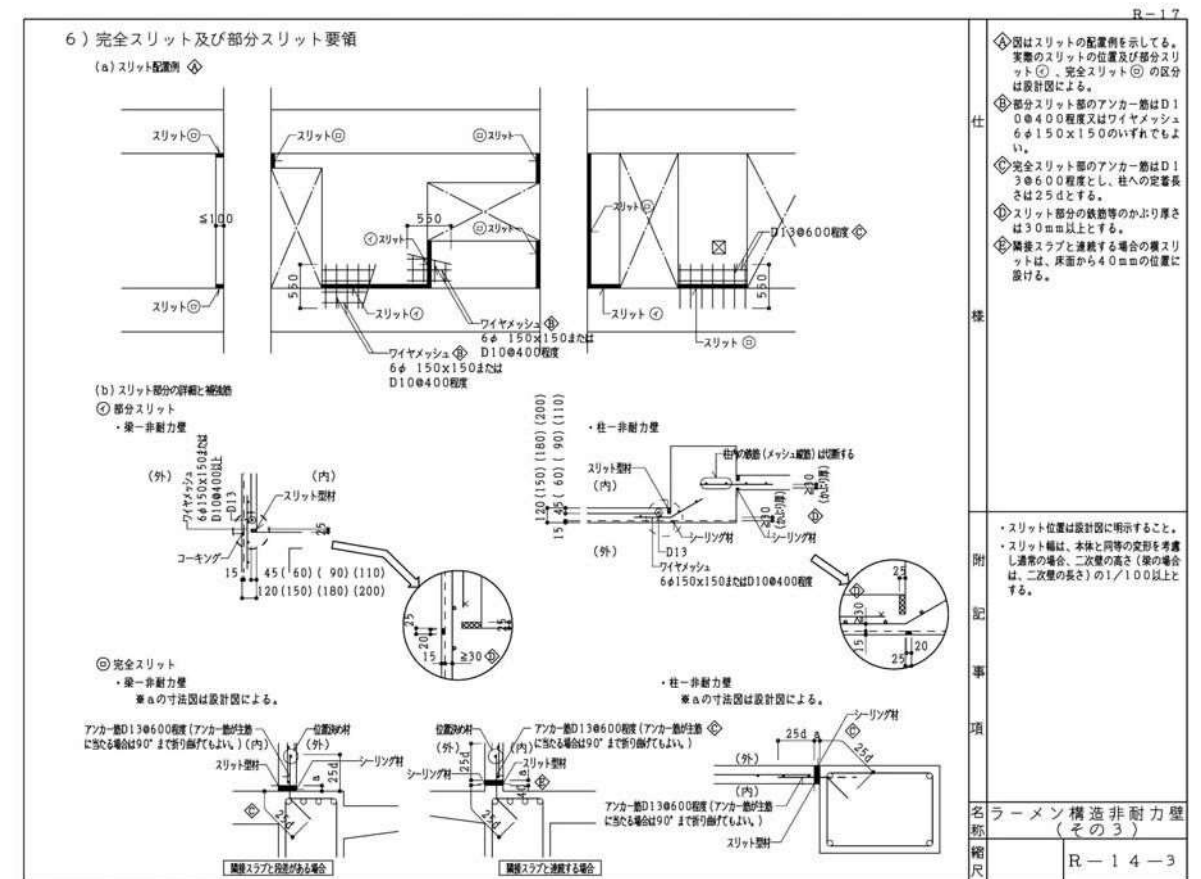
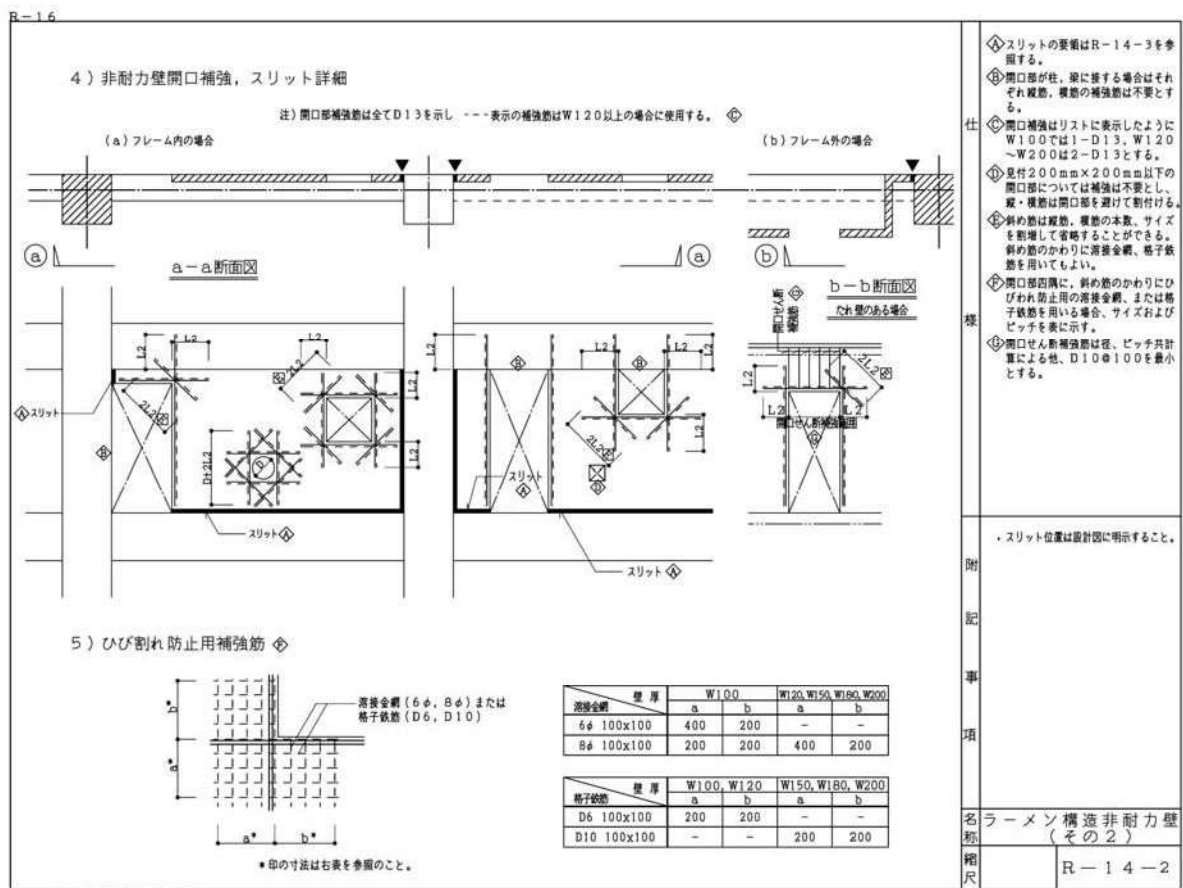


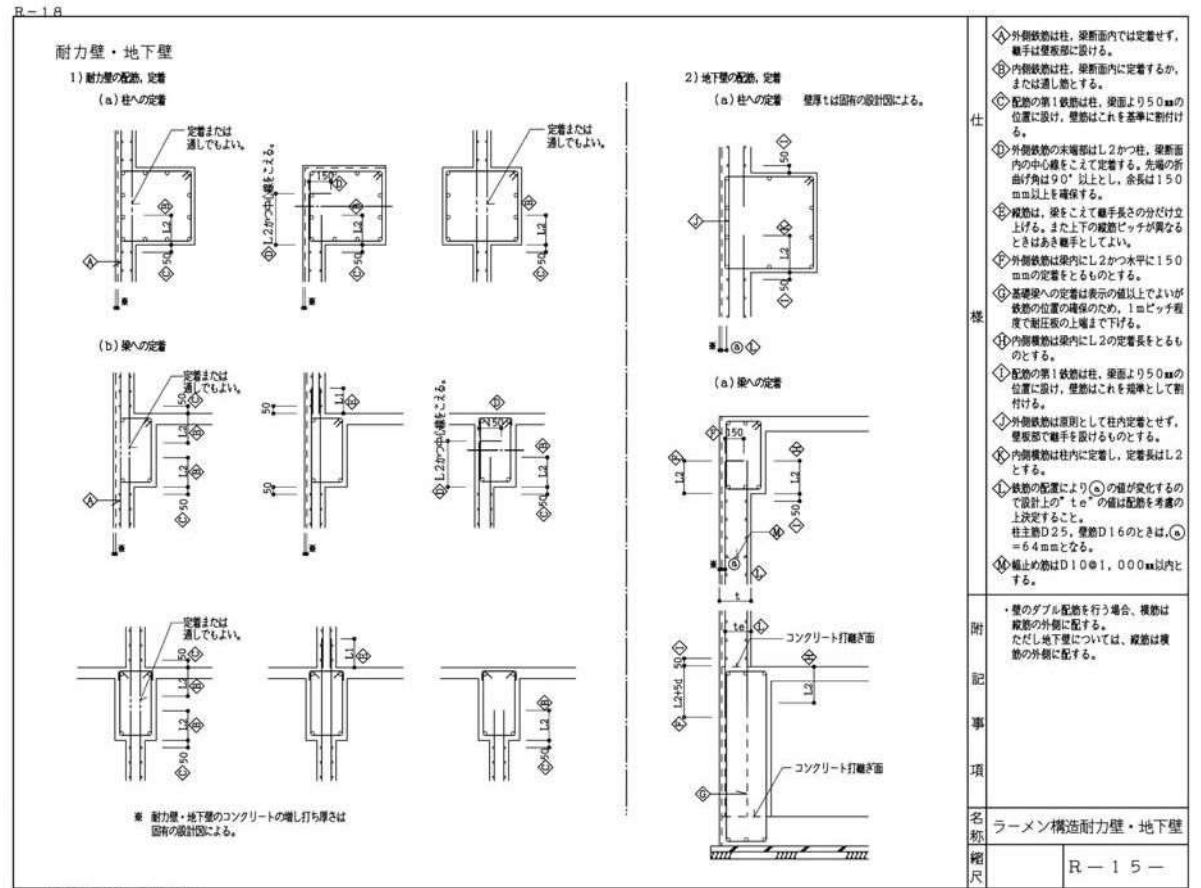
公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

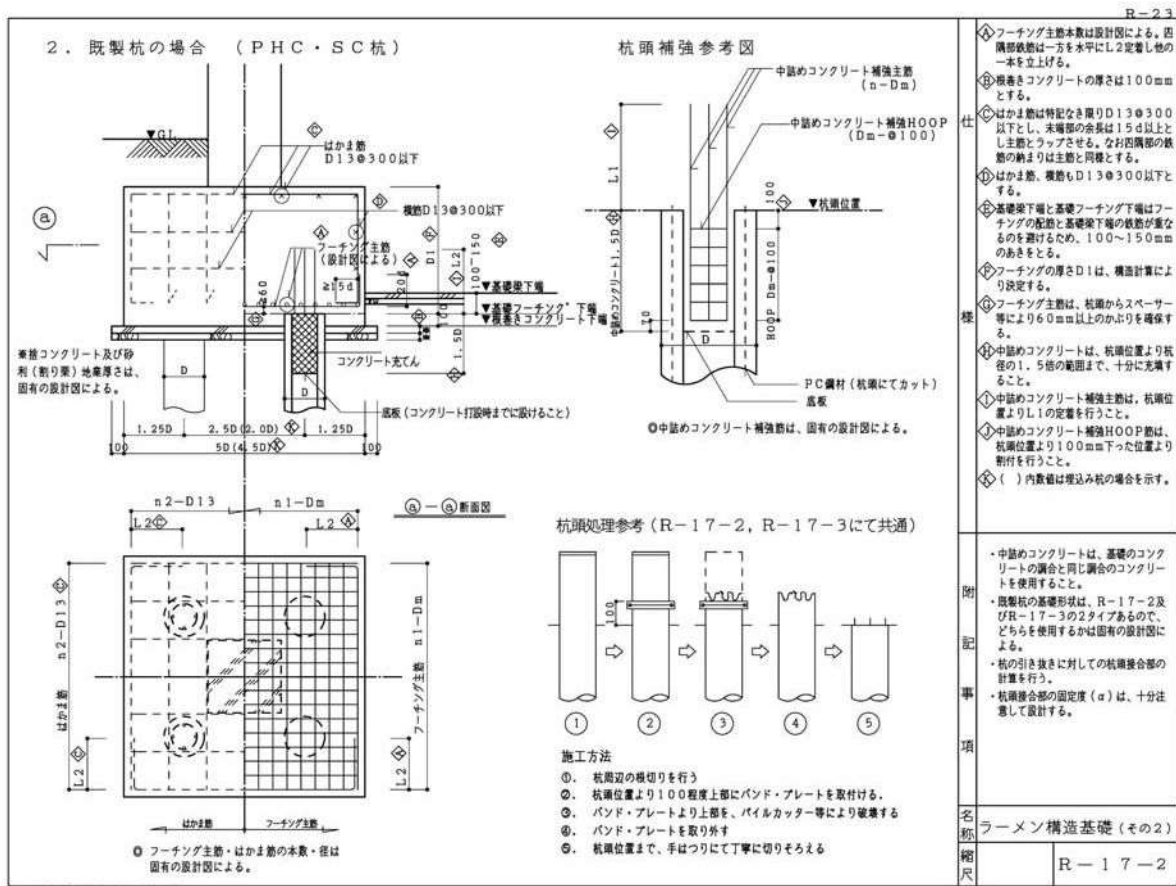


公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録第 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図 (4)	縮尺 A1 : - A3 : -	No.S04
検 図	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		



仕
様

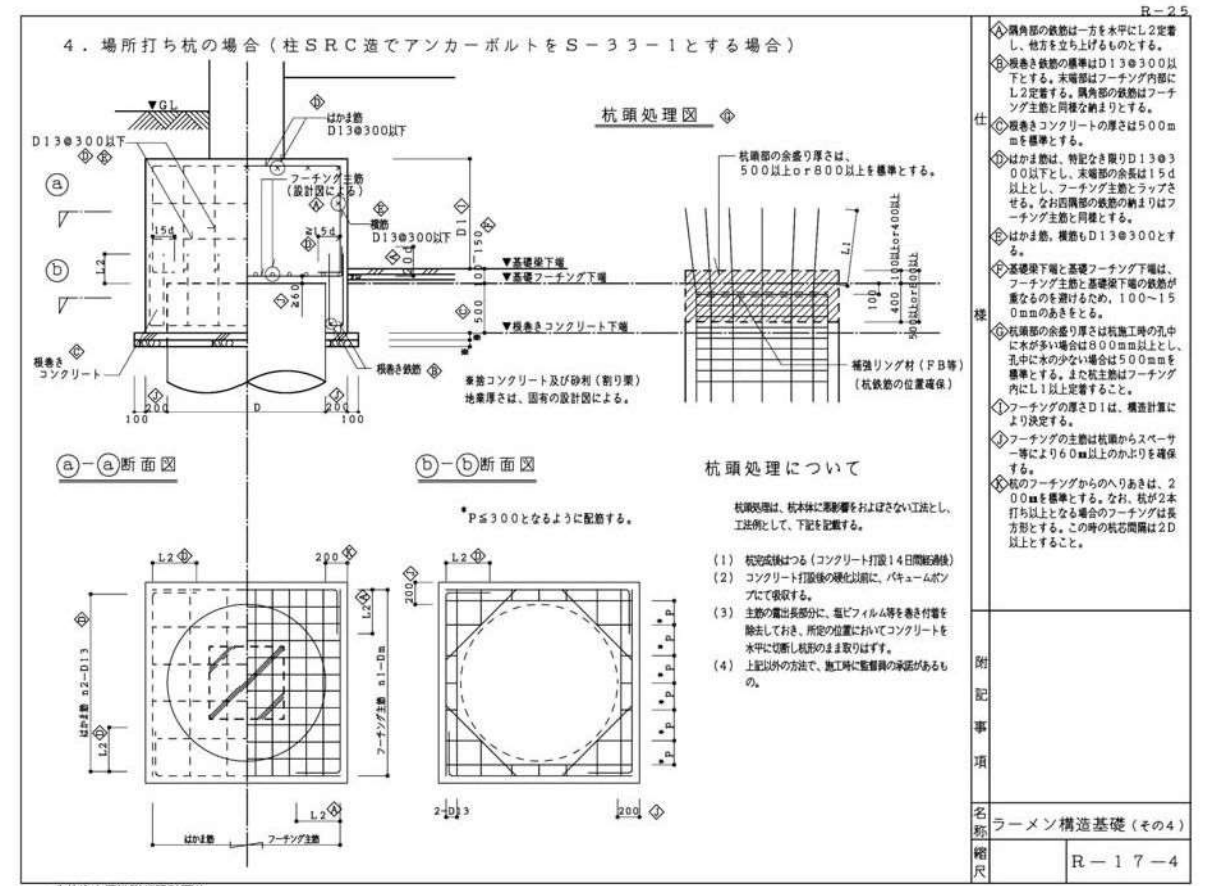
- フーチング主筋本数は設計図による。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。
- 縦向き鉄筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。
- はかま鉄筋、横筋もD13φ300以下とする。
- 基礎梁下端と基礎フーチング下端はフーチングの配置と基礎梁下端の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきとする。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチングの主筋は、杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。
- 中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置よりL1の定着を行うこと。
- 中詰めコンクリート補強HOPP筋は、杭頭位置より100mm下った位置より打付を行うこと。
- () 内数値は埋込み杭の場合を示す。

附
記
事
項

- 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。
- 基礎杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは固有の設計図による。
- 杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。
- 杭頭接合部の固定度(α)は、十分注意して設計する。

名
稱
ラメン構造基礎(その2)

縮
尺
R-17-2



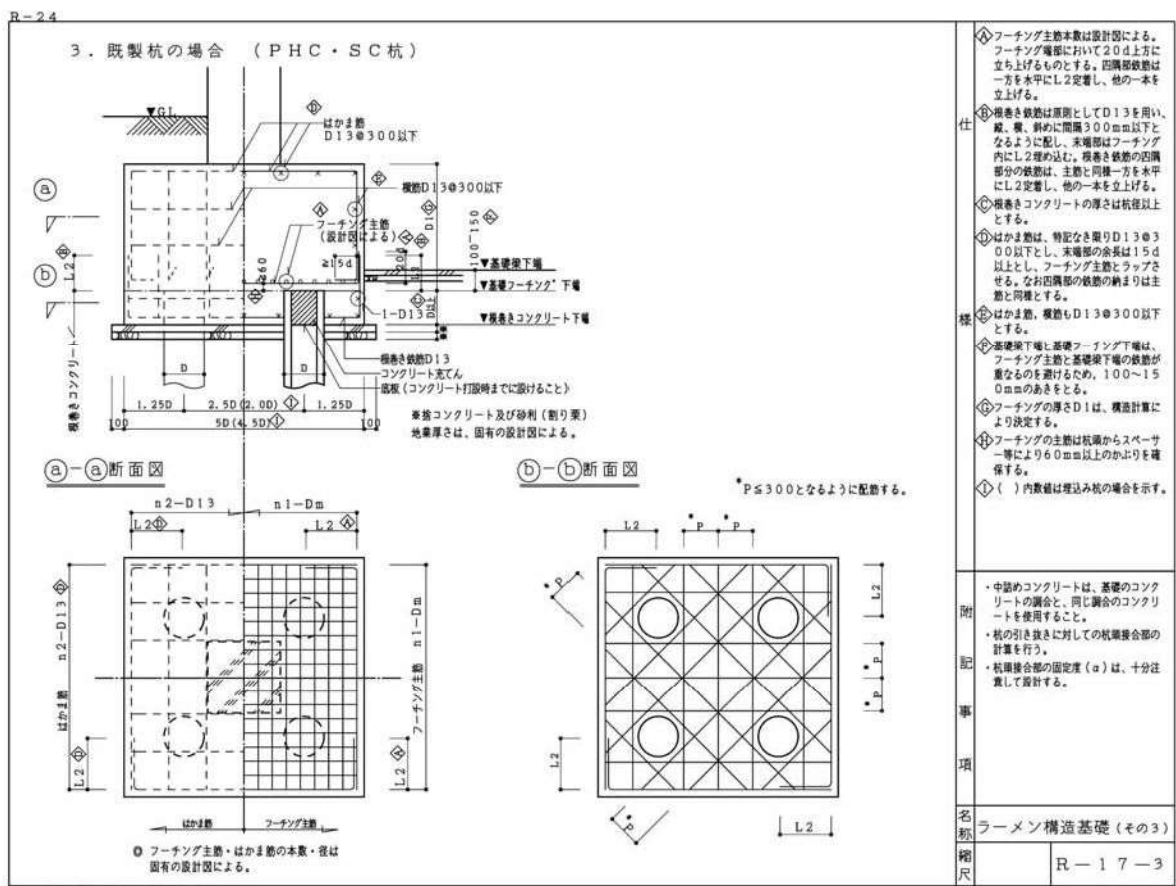
仕
様

- 隅角部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるよう配筋する。
- 縦向き鉄筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。隅角部の鉄筋はフーチング主筋と同様とする。
- 縦向きコンクリートの厚さは500mmを標準とする。
- はかま鉄筋は、特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりはフーチング主筋と同様とする。
- はかま鉄筋、横筋もD13φ300とする。
- 基礎梁下端と基礎フーチング下端は、フーチング主筋と基礎梁下端の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきとする。
- 杭頭部の余り厚さは杭施工時の孔中に水が多い場合は800mm以上とし、孔中に水が少ない場合は500mmを標準とする。また主筋はフーチング内にL1以上定着すること。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合はフーチングは長方形とする。この時の杭間距離は2D以上とする。

附
記
事
項

名
稱
ラメン構造基礎(その4)

縮
尺
R-17-4



仕
様

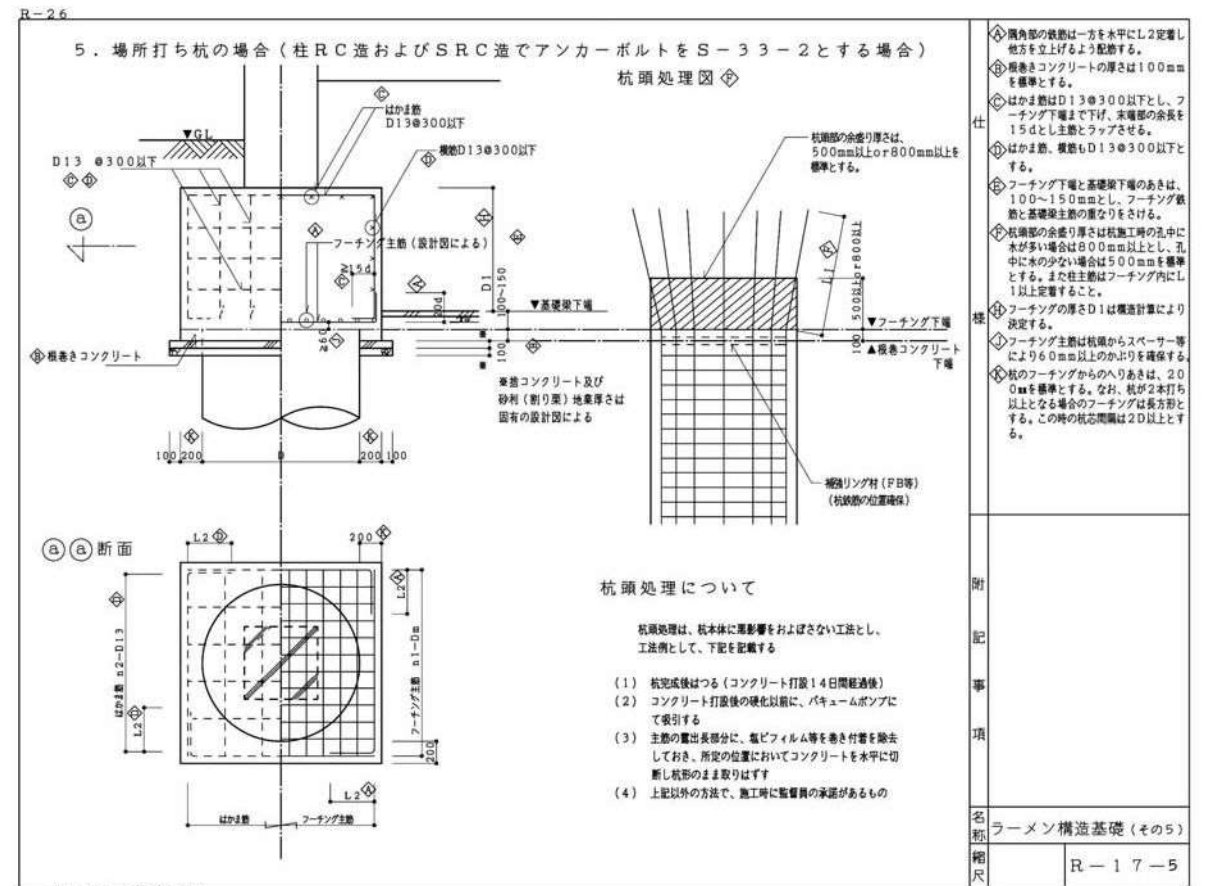
- フーチング主筋本数は設計図による。フーチング等において20d以上立ち上げるものとする。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。
- 縦向き鉄筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。隅角部の鉄筋は、主筋と同様一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。
- はかま鉄筋は、特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。
- 基礎梁下端と基礎フーチング下端は、フーチング主筋と基礎梁下端の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきとする。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- () 内数値は埋込み杭の場合を示す。

附
記
事
項

- 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。
- 杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。
- 杭頭接合部の固定度(α)は、十分注意して設計する。

名
稱
ラメン構造基礎(その3)

縮
尺
R-17-3



仕
様

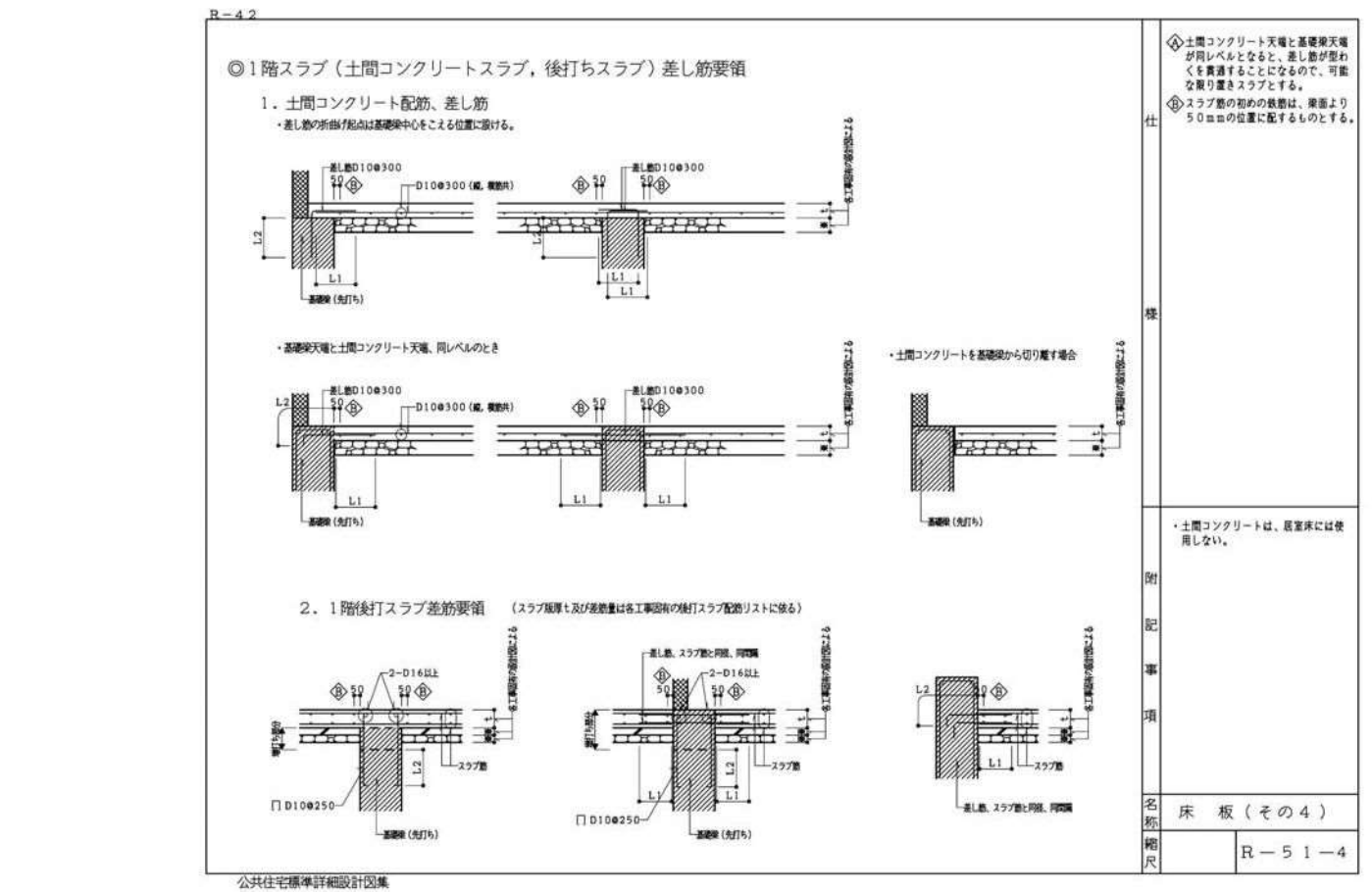
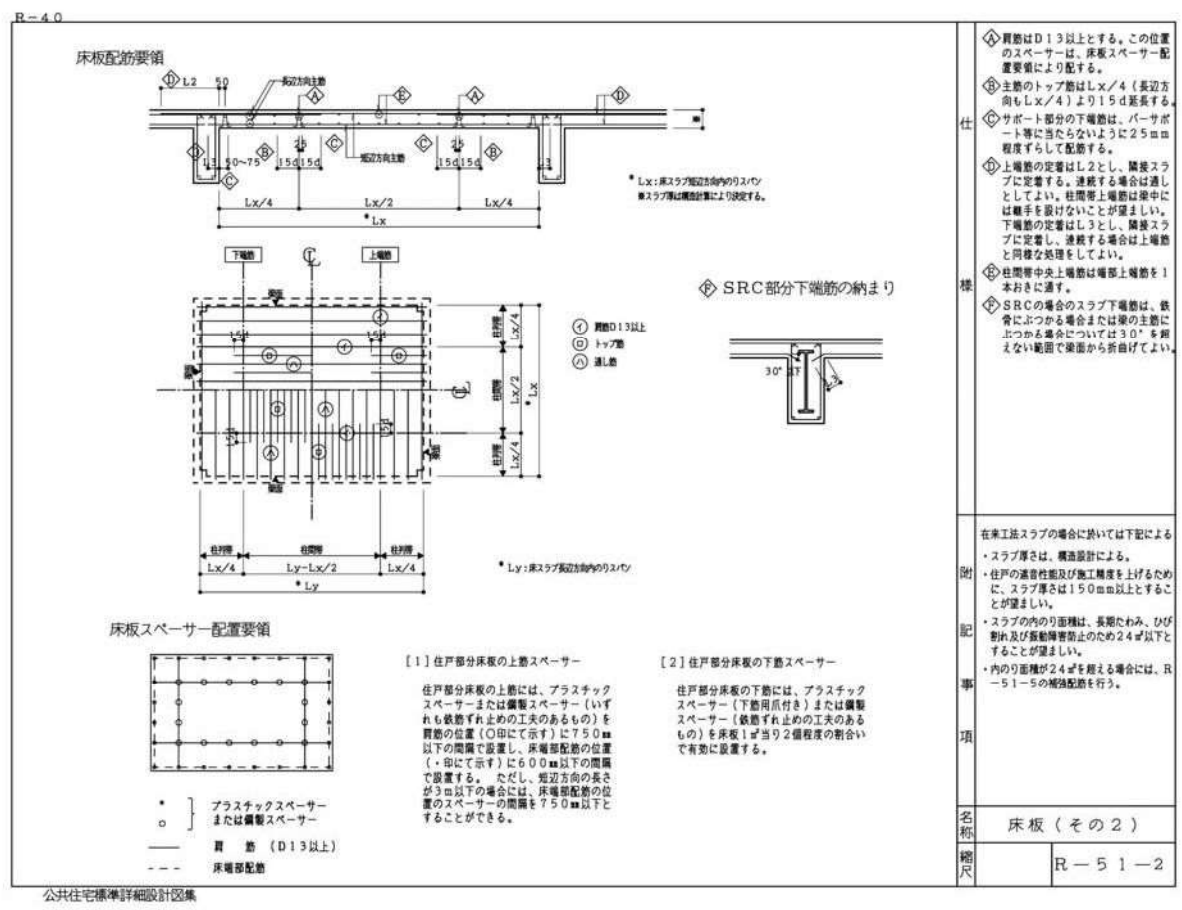
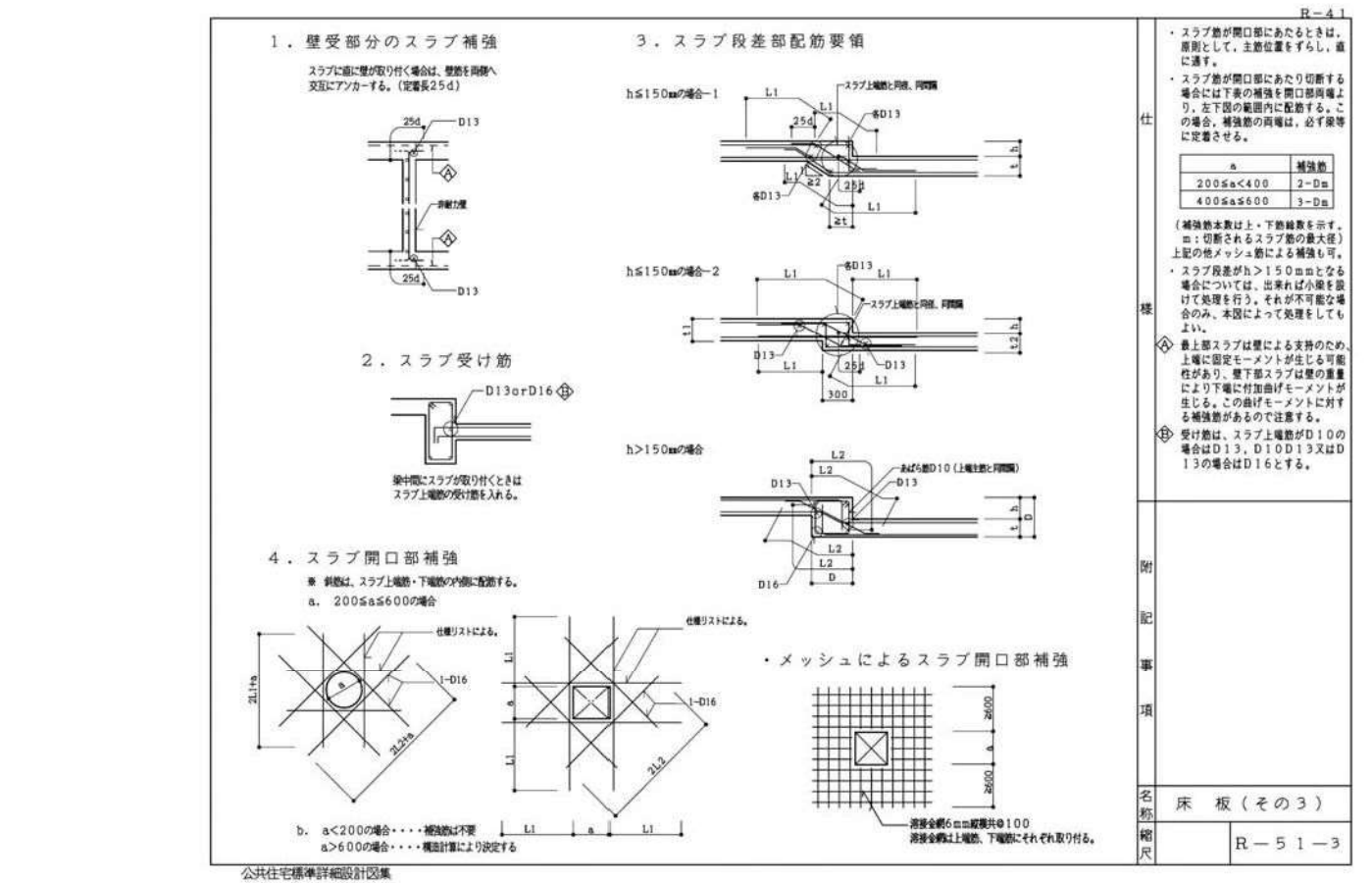
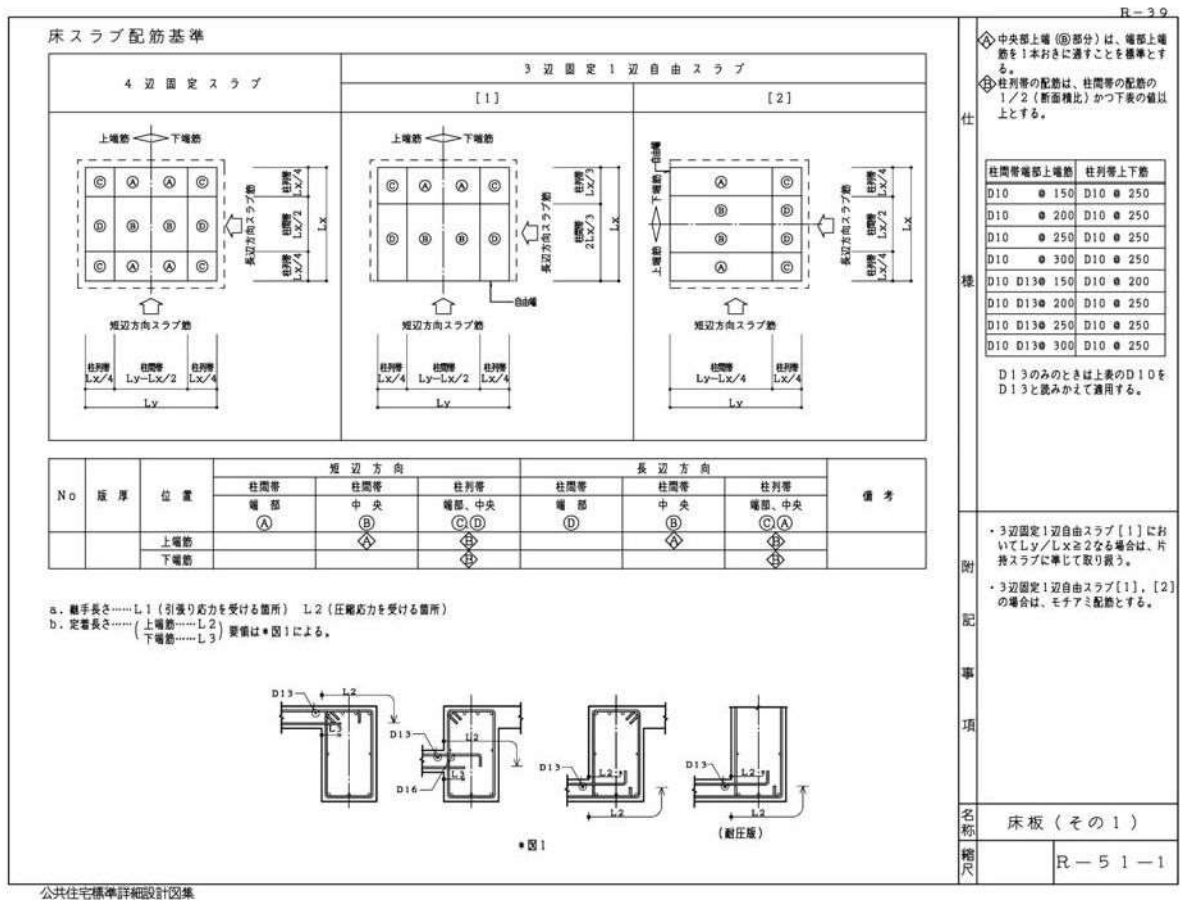
- 隅角部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるよう配筋する。
- 縦向き鉄筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。
- はかま鉄筋、横筋もD13φ300以下とする。
- 基礎梁下端と基礎フーチング下端のあきは、100~150mmとし、フーチング鉄筋と基礎梁主筋の重なりをさげる。
- 杭頭部の余り厚さは杭施工時の孔中に水が多い場合は800mm以上とし、孔中に水が少ない場合は500mmを標準とする。また主筋はフーチング内にL1以上定着すること。
- フーチングの厚さD1は構造計算により決定する。
- フーチング主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合はフーチングは長方形とする。この時の杭間距離は2D以上とする。

附
記
事
項

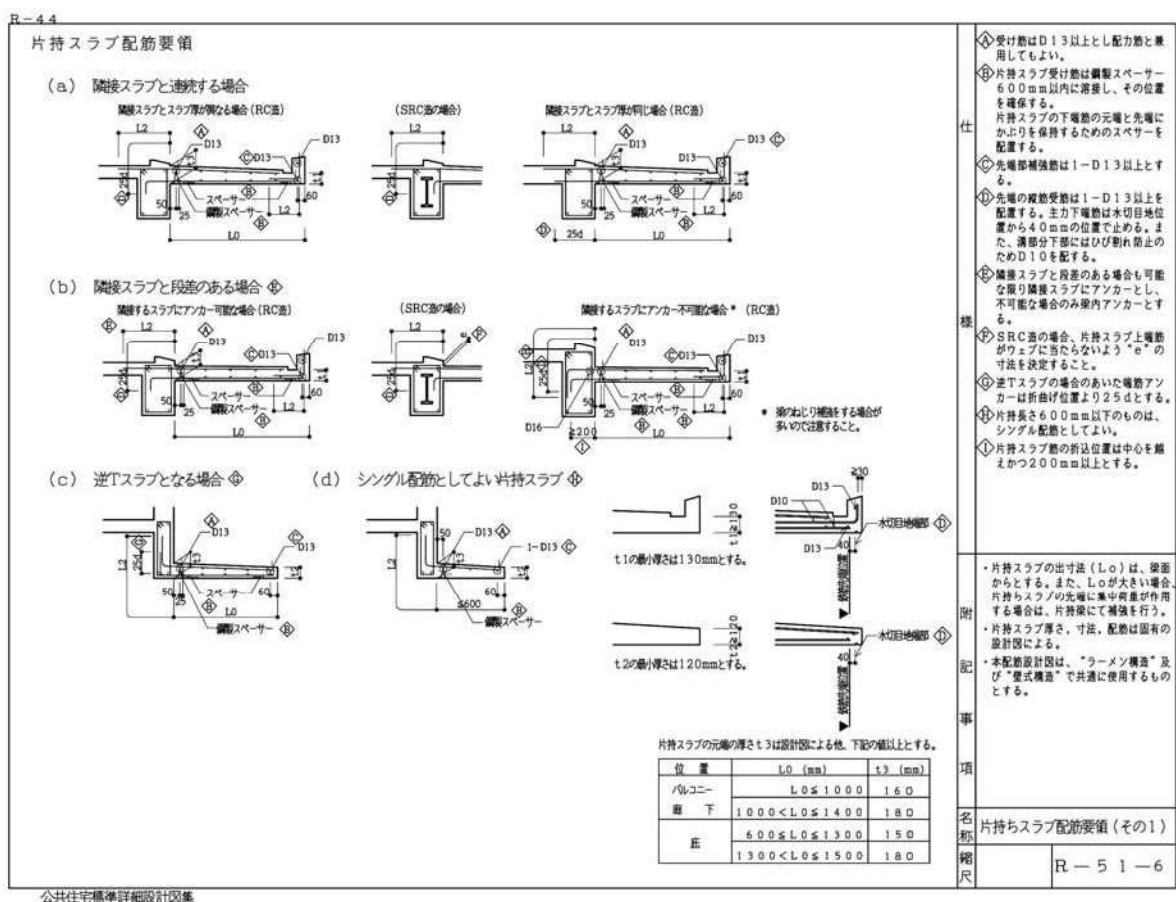
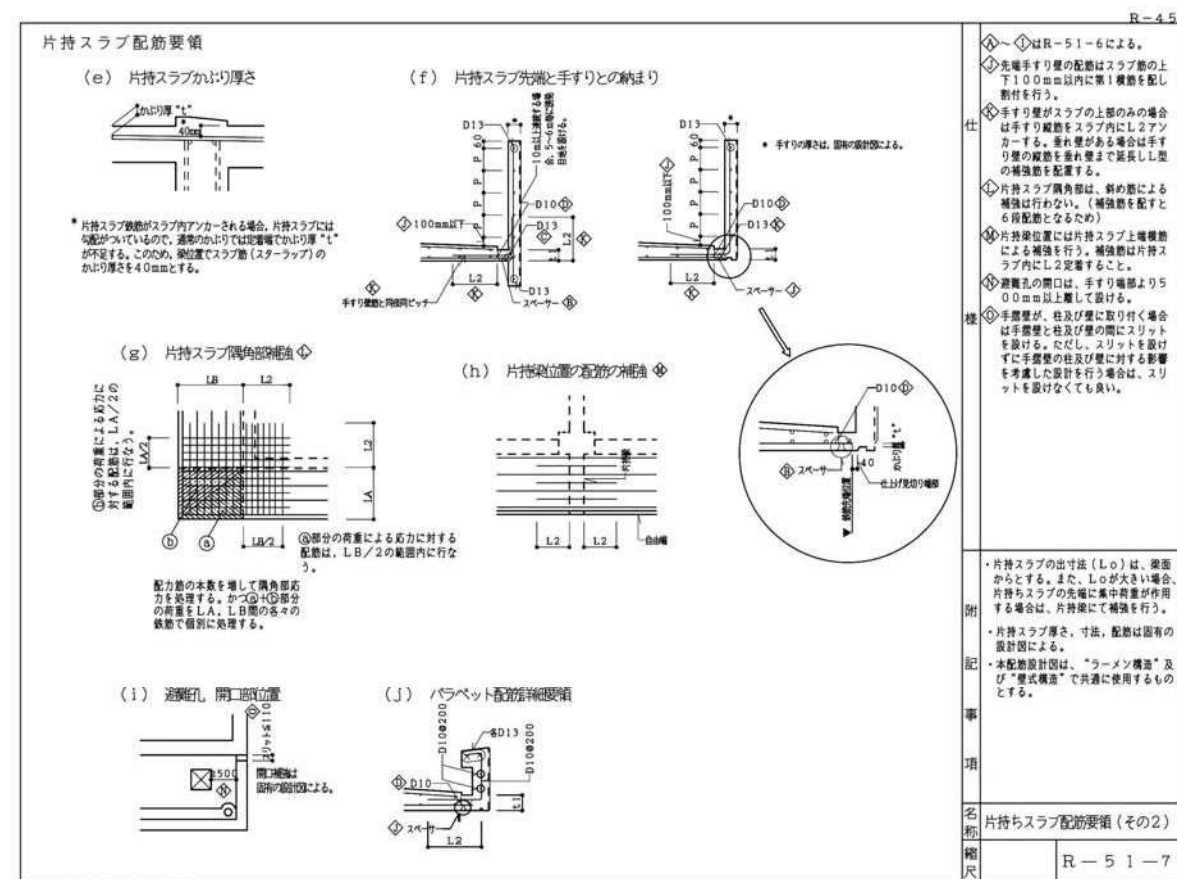
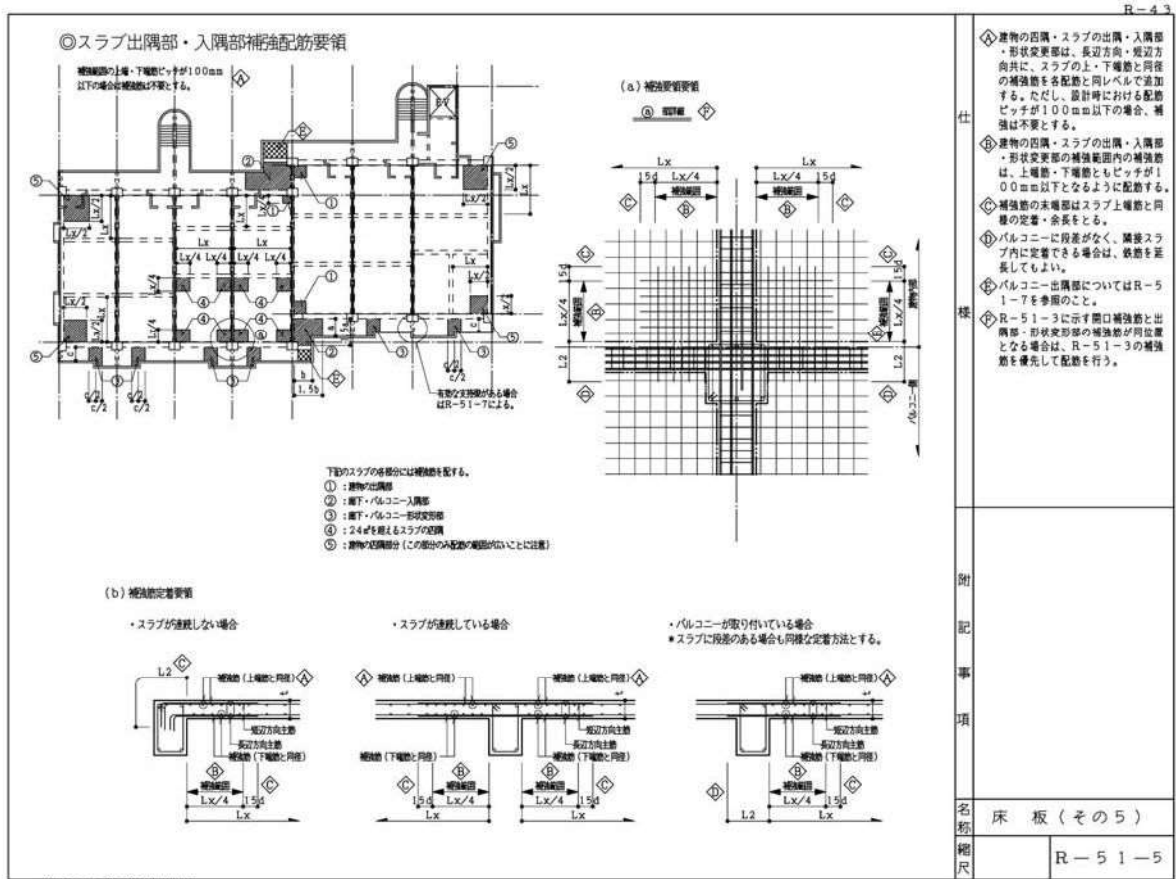
名
稱
ラメン構造基礎(その5)

縮
尺
R-17-5

株式会社 ERCデザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図(6)	縮尺 A1 : - A3 : -	No.S06
検 図	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		

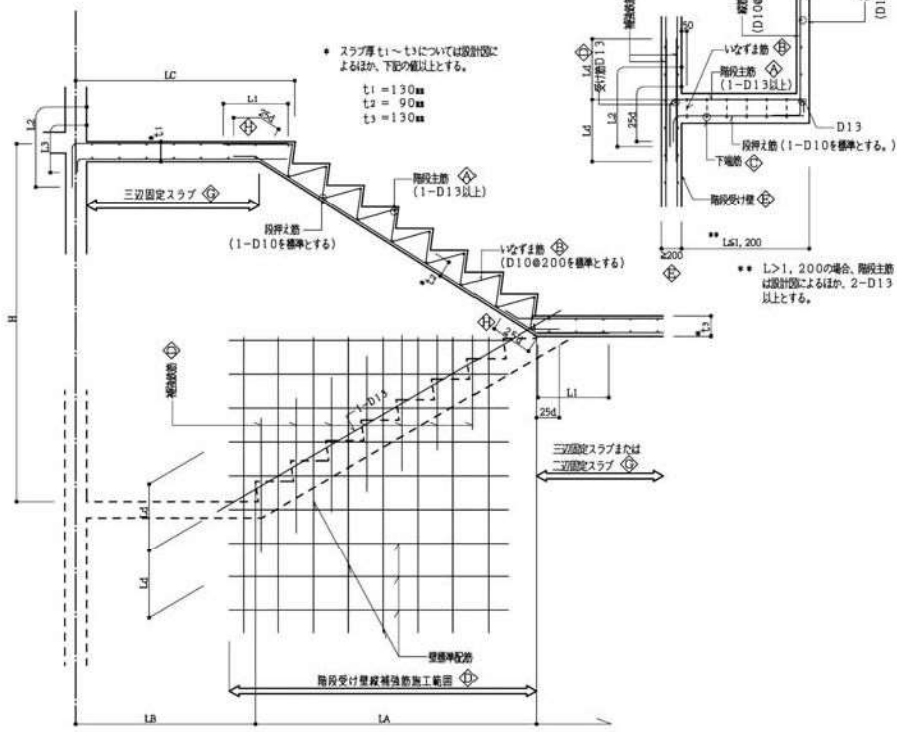


株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事 (第10工区)	図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図(7)	縮尺 A1:- A3:- No.S07
検 図	製 図	設 計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課



株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第266338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図(B)	縮尺 A1:- A3:-	No.S08
検 図	製 図	設 計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

階段配筋詳細図
1) 片持階段の配筋 [住棟内]



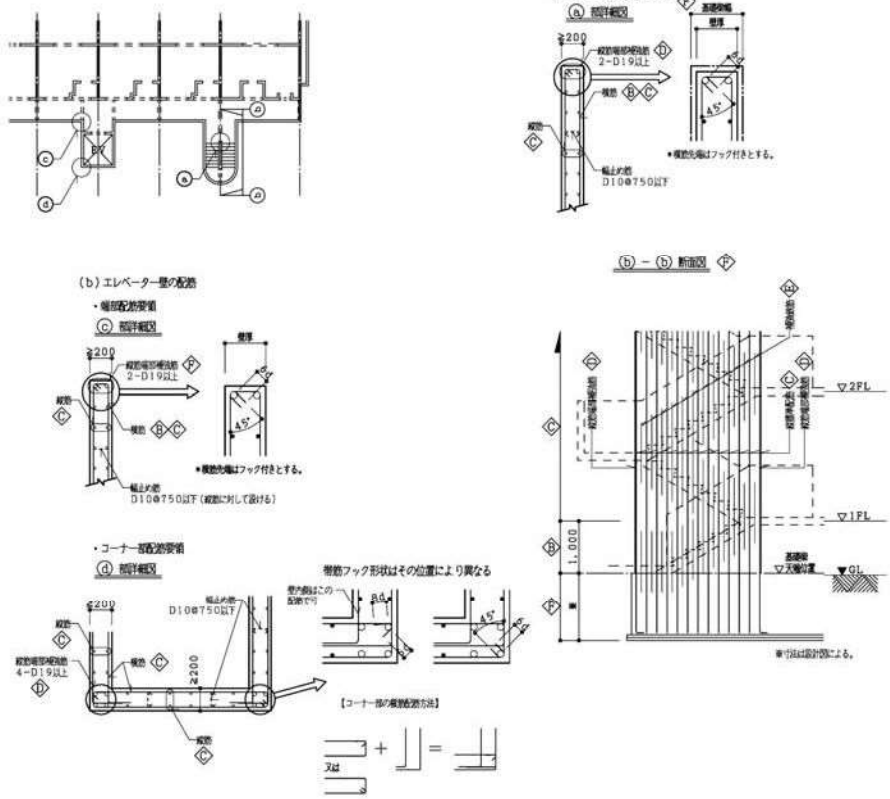
公共住宅標準詳細設計図集

- 階段主筋は設計図によるほか、1-D13以上とする。
- いかなる寸法もD10@200を標準とし、階段受け壁より50mmの位置に等しい寸法を配筋する。
- 下階筋はD10@200を標準とする。(ピッチが異なる寸法と同じとし、いかなる寸法も配筋する。)
- 片持階段受け壁に設ける段床の曲げ補強筋の有無、及びその定着長さしは設計図による。
- 階段受け壁の厚さは200mm以上とする。
- 屋外階段受け壁の配筋については、R-55-3を参照する。
- 階段手すりの配筋要領は片持スラブ先端の手すりの配筋要領(R-51-7)に準ずる。
- 覆り場のスラブは三辺固定スラブ、または二辺固定スラブとして計算した上でモチアミ配筋を行うものとする。

・L.A, L.B, L.C, Hは固有の設計図による。

名称	階段廻り (その1)
縮尺	R-55-1

3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



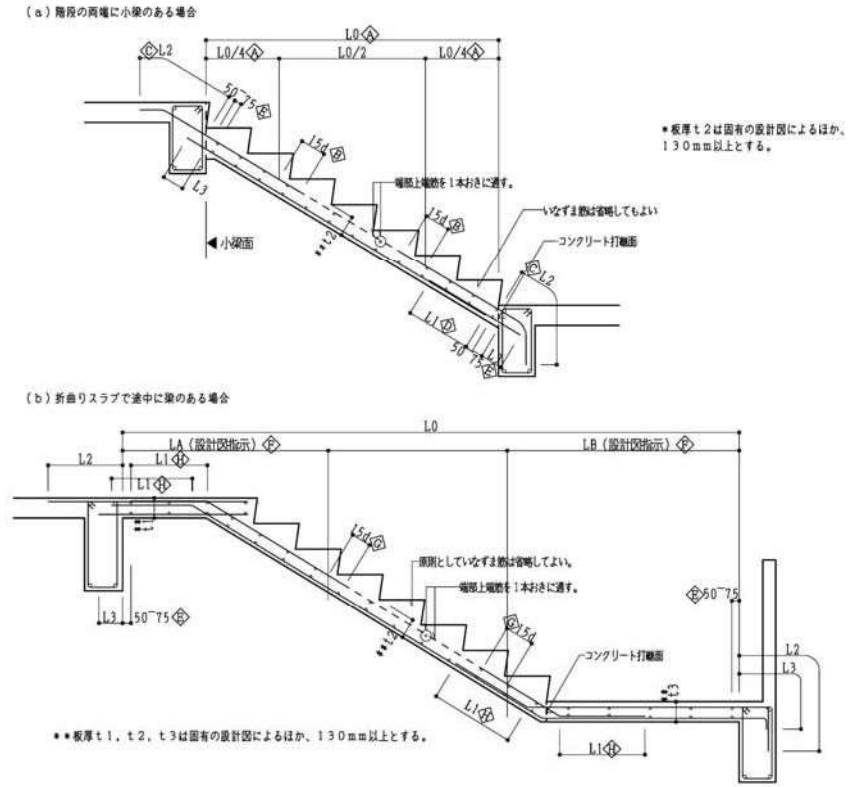
公共住宅標準詳細設計図集

- 建物本体から突出する屋外階段の受壁及びエレベーター壁の配筋は基礎の外側に等価形状で配筋する。
- 受壁筋は、基礎梁天端から1m以内は等価形状による。D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁筋は、基礎梁天端から1m以内は等価形状による。D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁筋は、基礎梁天端から1m以内は等価形状による。D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁筋は、基礎梁天端から1m以内は等価形状による。D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁筋は、基礎梁天端から1m以内は等価形状による。D10@100以下となるように配筋する。

・段部の配筋 (いかなる寸法等) はR-35, R-55-1による。
・本図は、「ラメン構造」"壁式構造"にて共通とする。

名称	階段廻り (その3)
縮尺	R-55-3

2) スラブ階段の配筋



公共住宅標準詳細設計図集

- 主筋の端部中央の区分は、階段内のリズL0の1/4の点とする。(通常のスラブと同様である。)
- 端部トップ筋の余長は、L0/4の点より1.5dとする。
- 端部上層主筋は隣接するスラブ内、または壁に十分定着させること。定着長はL2とする。
- 端部下層筋はL0/4の区間内とする。コンクリート打継ぎがあるので注意すること。
- 配筋筋の端部位置を示す。配筋筋はこの位置から折付ける。
- 主筋の端部中央の区分は設計図によるものとする。
- 端部の上層筋の余長は区分より1.5dとする。
- 折曲り点において上層筋、下層筋とも端部より1.5dとって、各スラブ鉄筋と連続させる。

・段部の配筋 (いかなる寸法等) はR-35, R-55-1による。

名称	階段廻り (その2)
縮尺	R-55-2

株式会社 E R Cデザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図 (9)	縮尺 A1 : - A3 : -	No.S09
検 図	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		

ボーリング柱状図

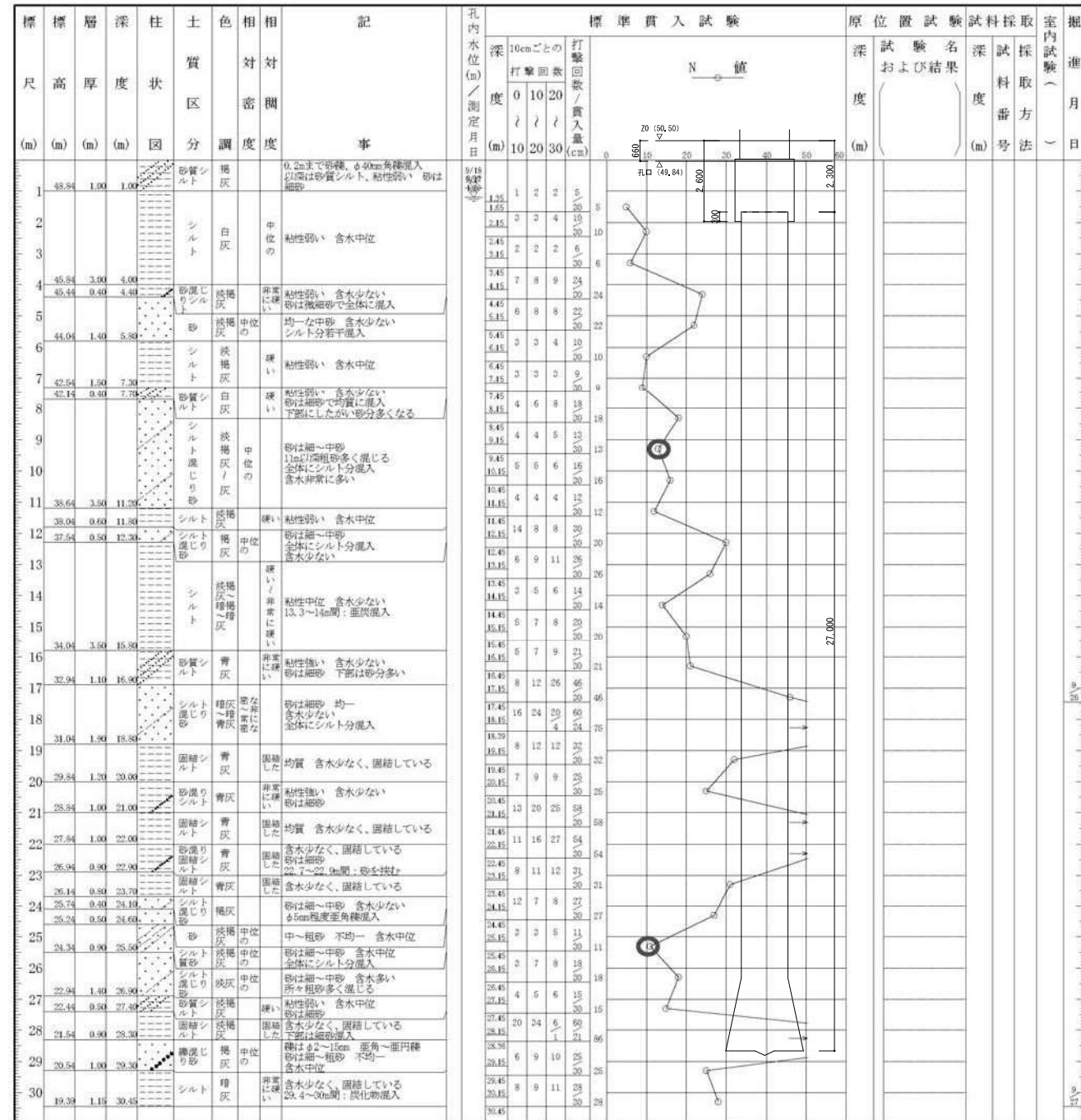
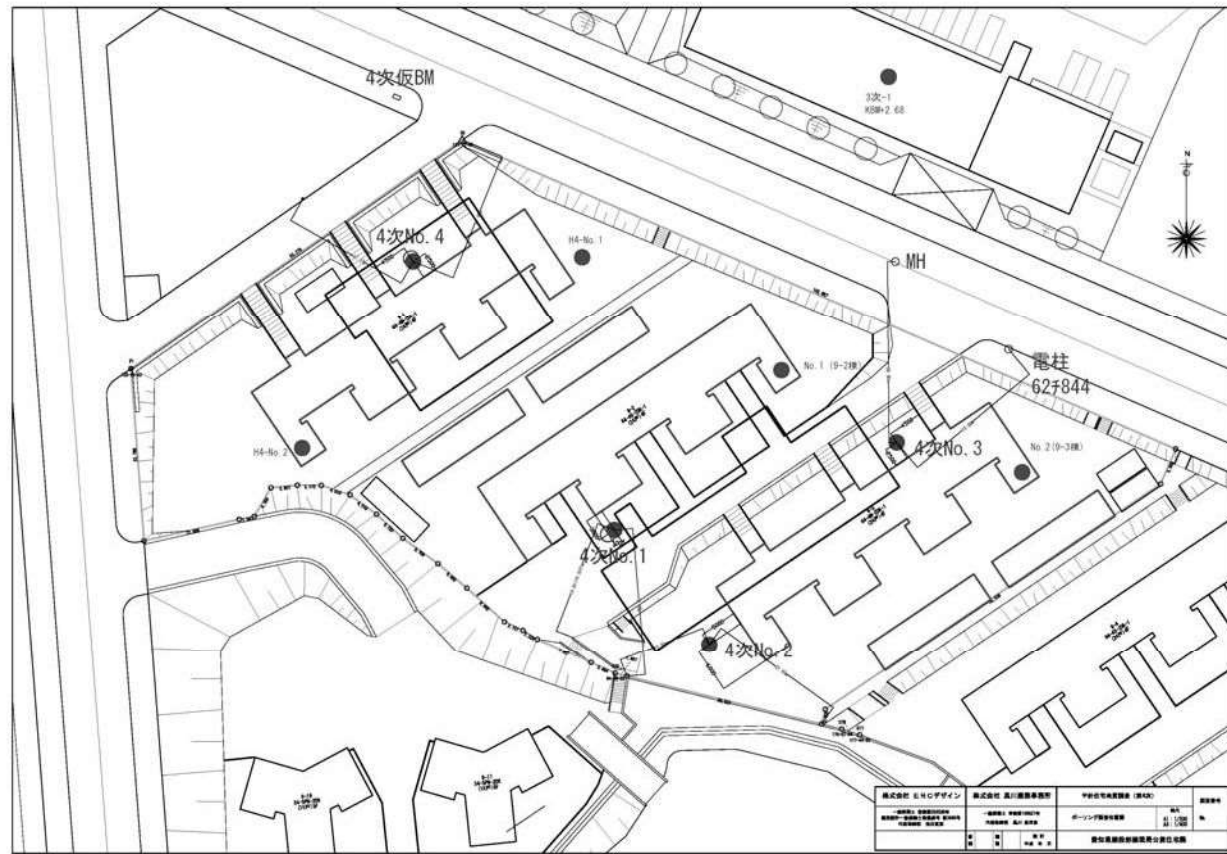
調査名 平成28年度 平針住宅地質調査(第4次)

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	愛知県名古屋市天白区平針南三丁目地内			北緯	35° 6' 36.3"		
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課			調査期間	平成28年9月26日～28年9月28日		東経	137° 0' 15.8"		
調査業者名	NTCコンサルタンツ(株) 中部支社 電話(052-229-1724)		主任技師	三宅裕次		現場代理人	三宅裕次		ボーリング責任者	鈴木敏之
孔口標高	49.84m	角	180°	方	北0°	地盤勾配	東邦地下工機 D-0D		ハンマー	半自動型
総掘進長	30.45m	上	90°	下	270°	使用機種	エンジン		ポンプ	東邦地下工機 BG-4C
		度	0°	向	180°		エンジン			



株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	ボーリング柱状図 1	縮尺 A1: N.S A3: N.S	№.S10
検	製	設計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年3月		

ボーリング柱状図

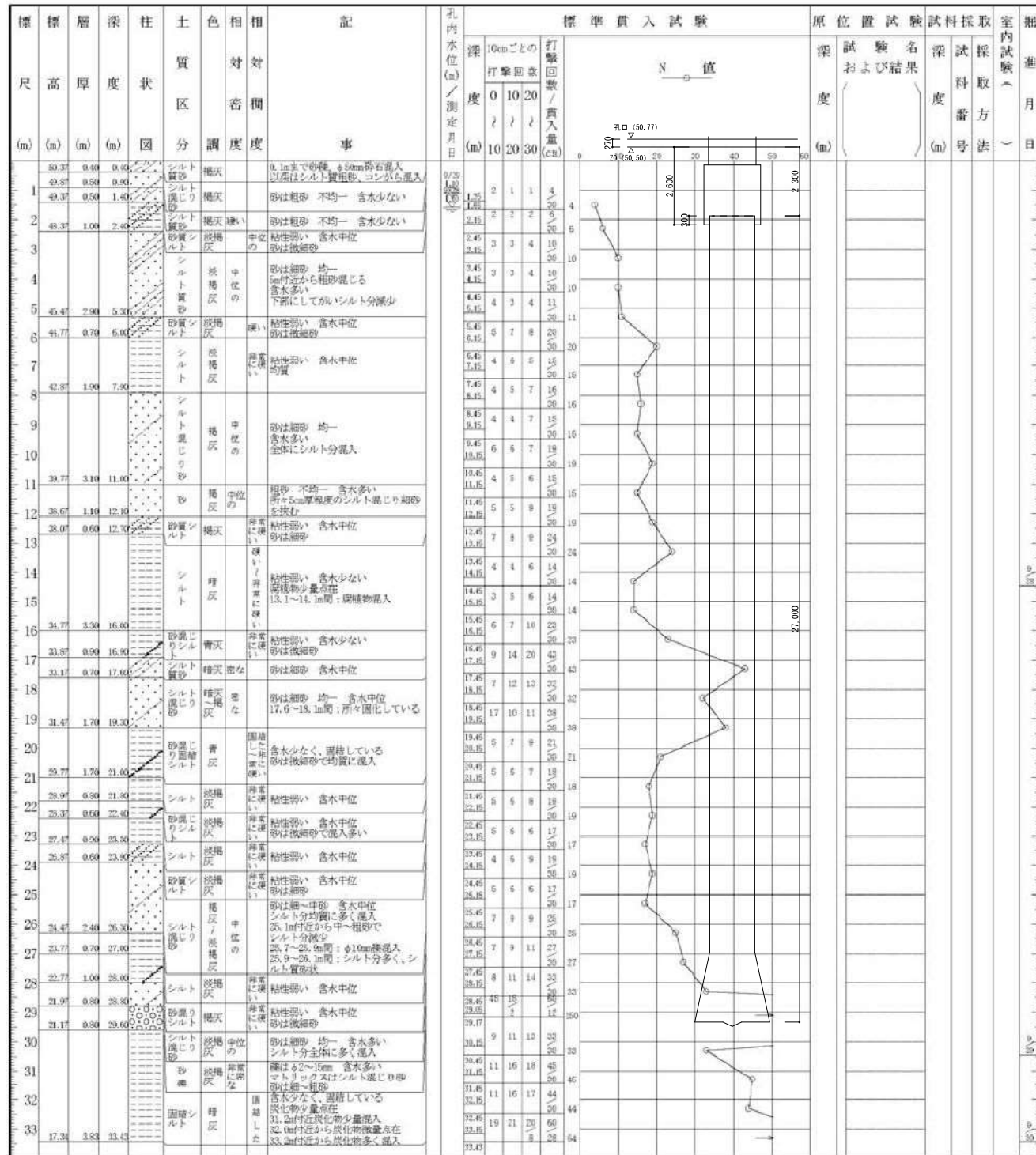
調査名 平成28年度 平針住宅地質調査(第4次)

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2		調査位置	愛知県名古屋市天白区平針南三丁目地内		北緯	35° 6' 35.8"	
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成28年9月28日～28年9月30日		東経	137° 0' 16.4"	
調査業者名	NTCコンサルタンツ(株)中部支社 電話(052-229-1724)		主任技師	三宅裕次		現代理人	三宅裕次	
調査業者名	NTCコンサルタンツ(株)中部支社 電話(052-229-1724)		主任技師	三宅裕次		コア鑑定者	三宅裕次	
ボーリング責任者	鈴木敏之		試験機	東邦地下工機 D-0D		ポンプ	ハンマー落下用具	
孔口標高	50.77m		使用機種	エンジン		ヤンマー NFAD9		
総掘進長	33.43m		エンジン	ヤンマー NFAD9		ポンプ	東邦地下工機 BG-4C	



ボーリング柱状図

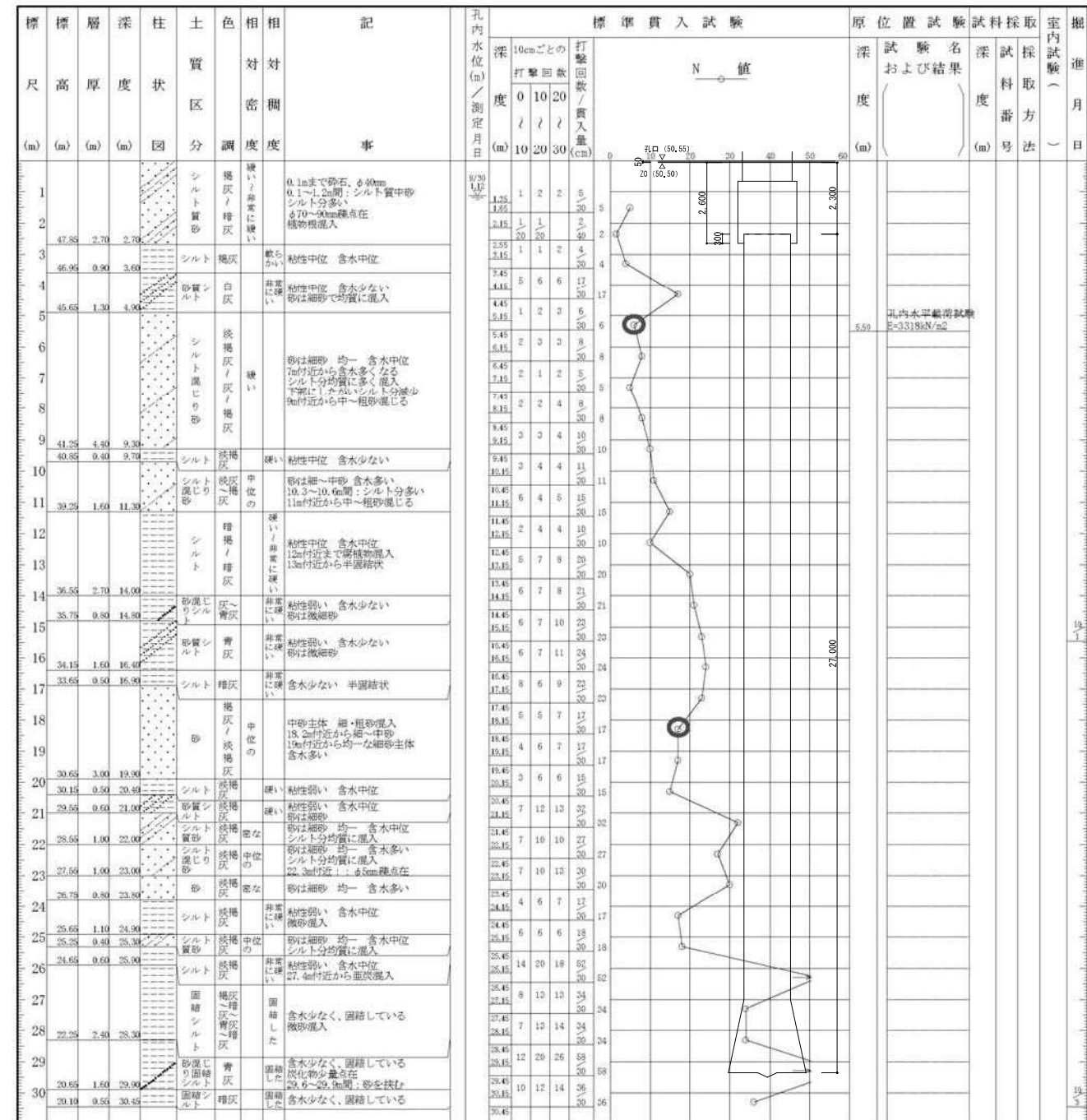
調査名 平成28年度 平針住宅地質調査(第4次)

ボーリングNo

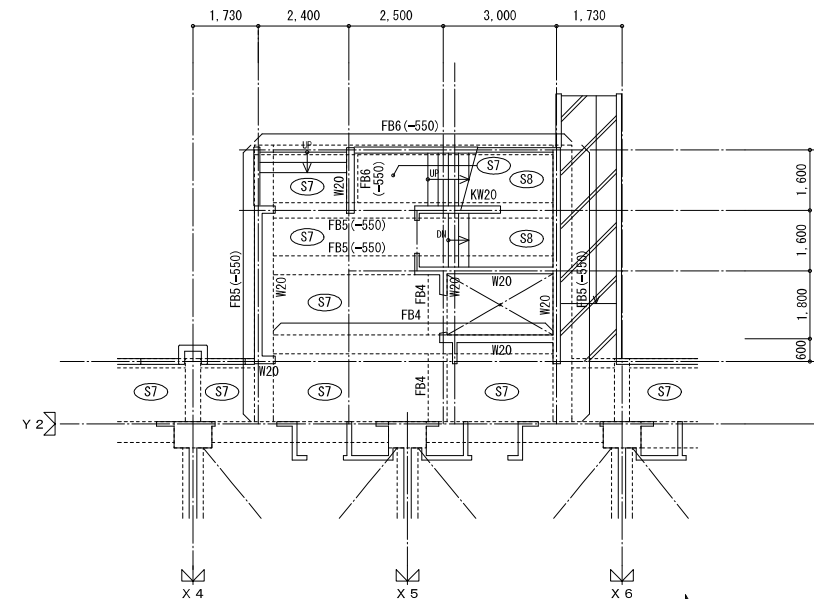
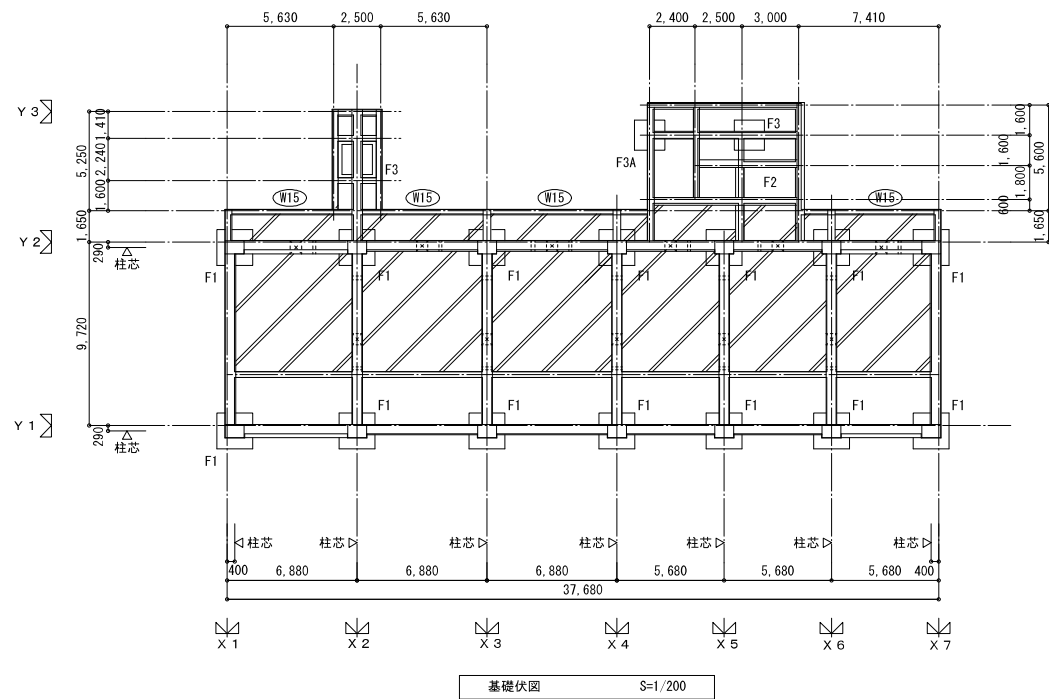
事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 3		調査位置	愛知県名古屋市天白区平針南三丁目地内		北緯	35° 6' 36.6"	
発注機関	愛知県建設部建築局公営住宅課		調査期間	平成28年9月30日～28年10月4日		東経	137° 0' 17.3"	
調査業者名	NTCコンサルタンツ(株)中部支社 電話(052-229-1724)		主任技師	三宅裕次		現代理人	三宅裕次	
調査業者名	NTCコンサルタンツ(株)中部支社 電話(052-229-1724)		主任技師	三宅裕次		コア鑑定者	三宅裕次	
ボーリング責任者	鈴木敏之		試験機	東邦地下工機 D-0D		ポンプ	ハンマー落下用具	
孔口標高	50.55m		使用機種	エンジン		ヤンマー NFAD9		
総掘進長	30.45m		エンジン	ヤンマー NFAD9		ポンプ	東邦地下工機 BG-4C	



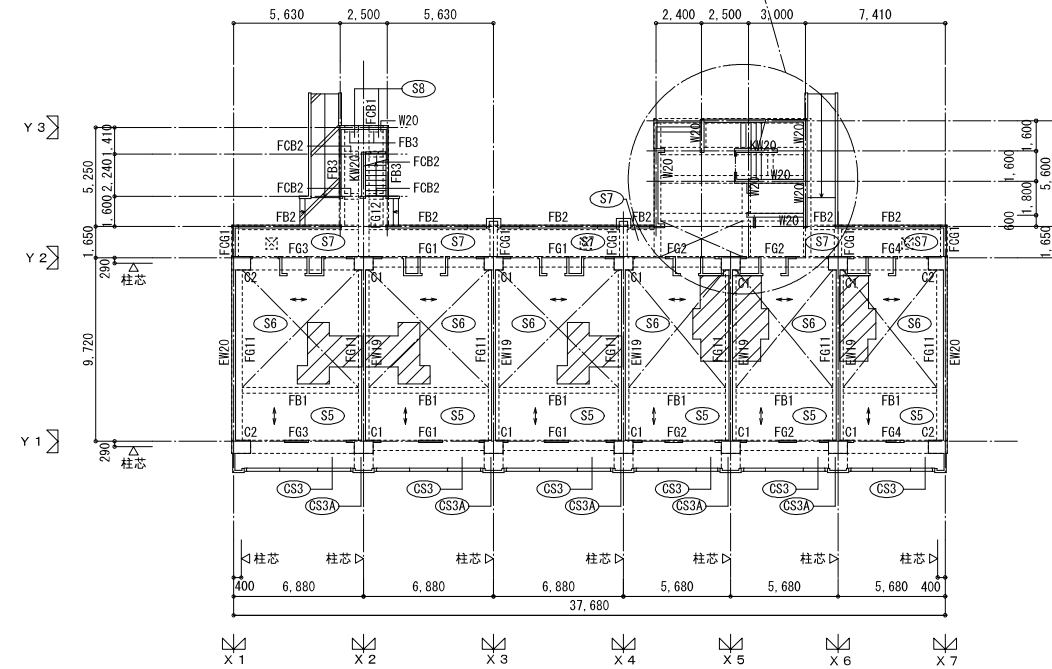
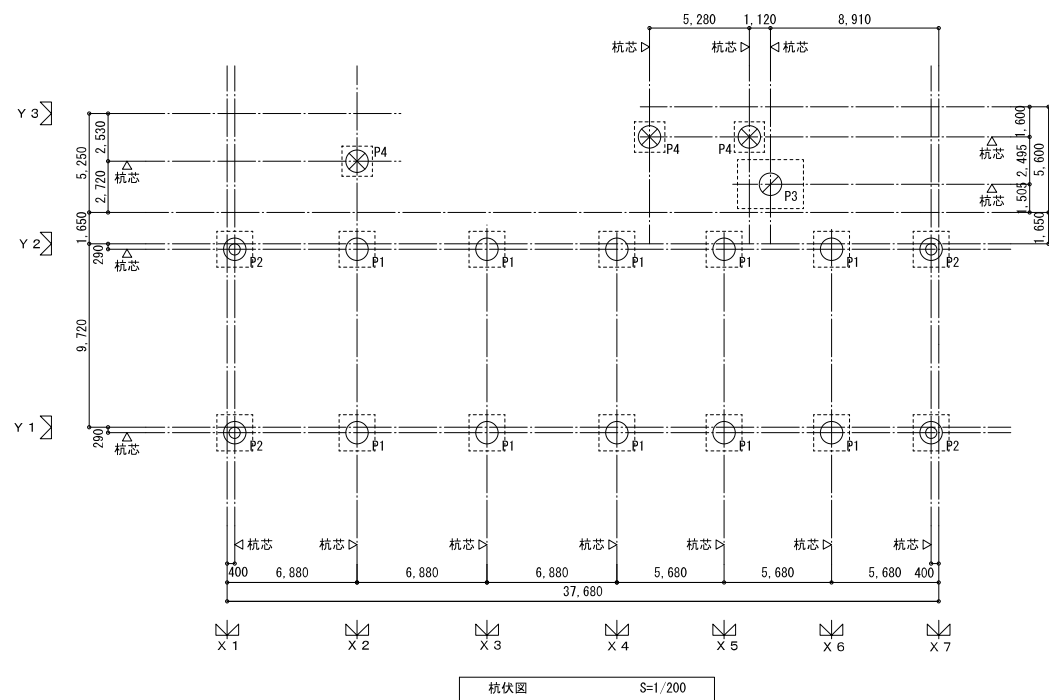
株式会社 E R Cデザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	ボーリング柱状図 2	縮尺 A1 : N.S A3 : N.S	№.S11
検	製	設	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		



外部階段、EV室部分拡大図 S=1/100

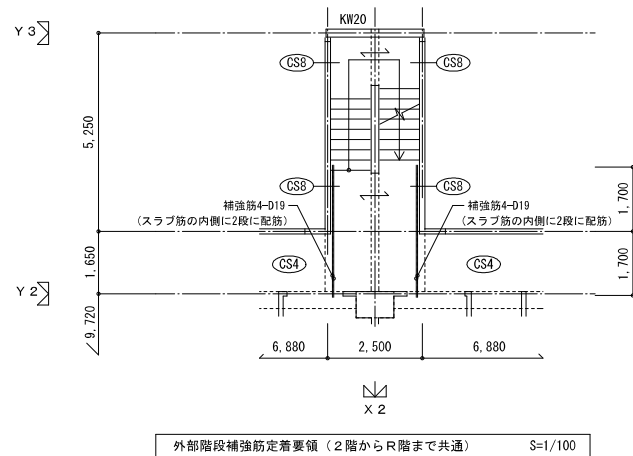
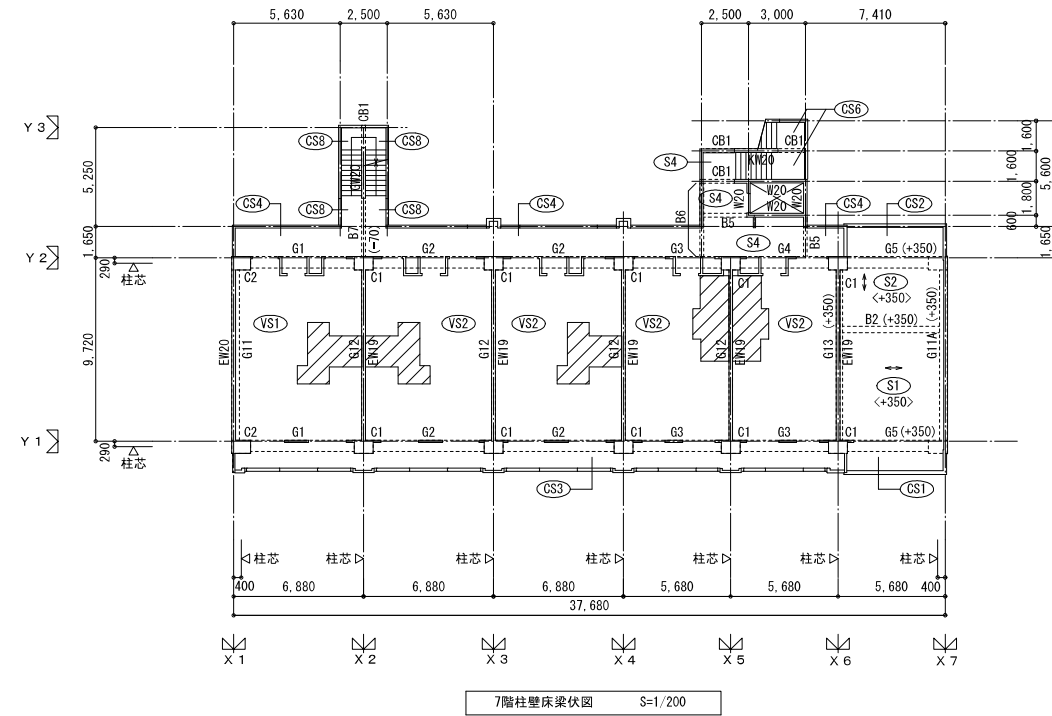
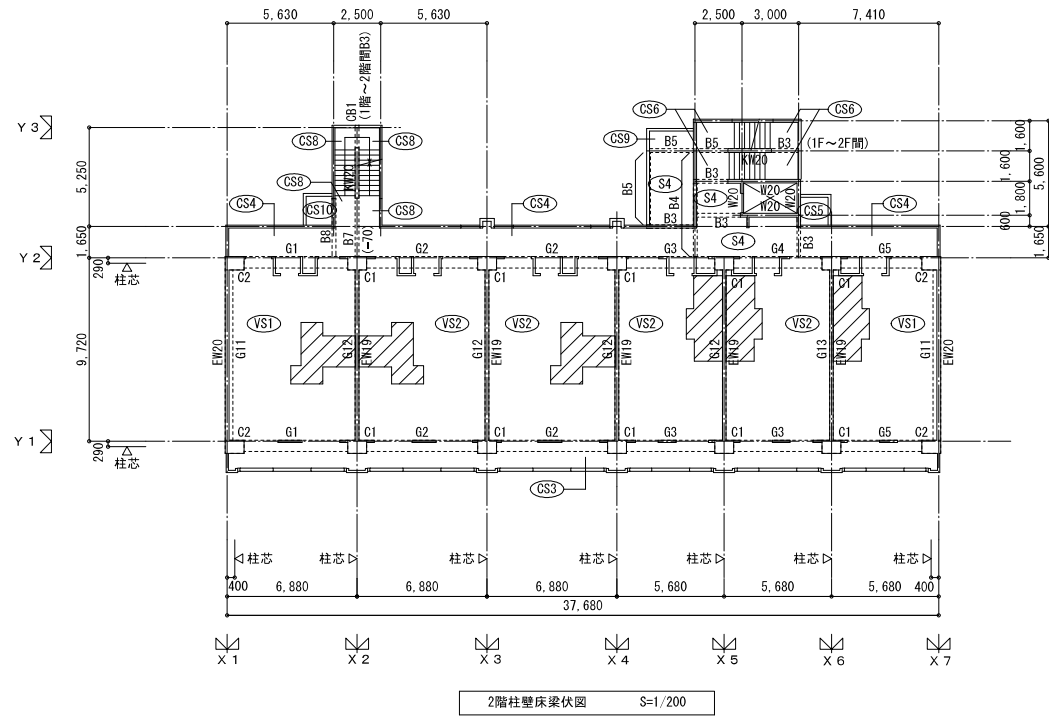
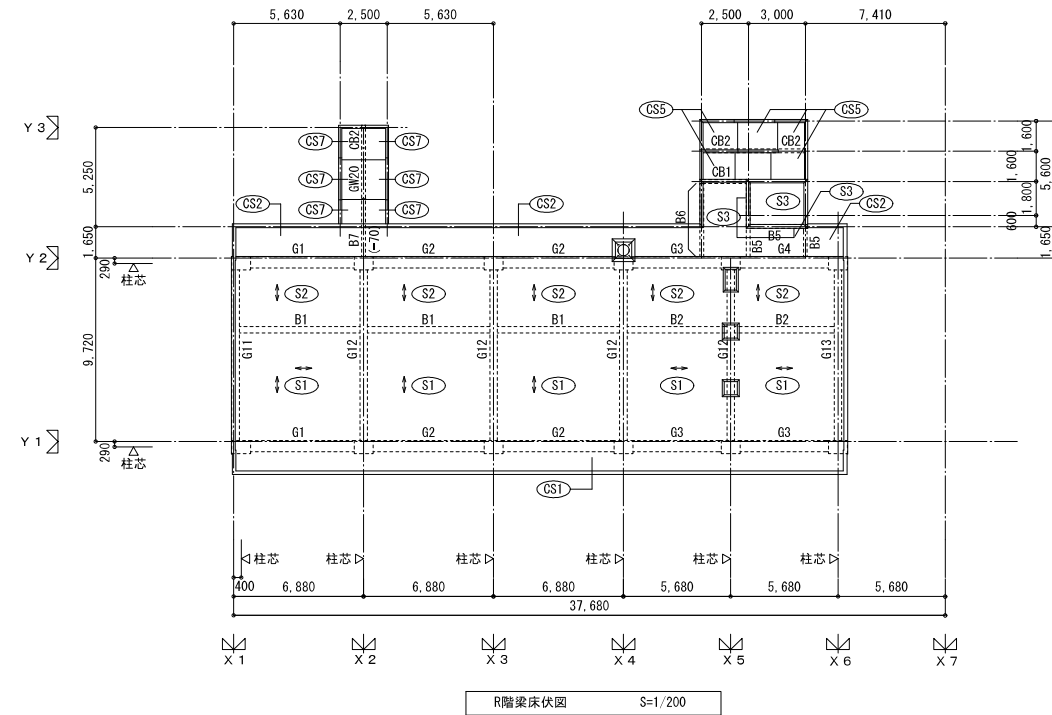
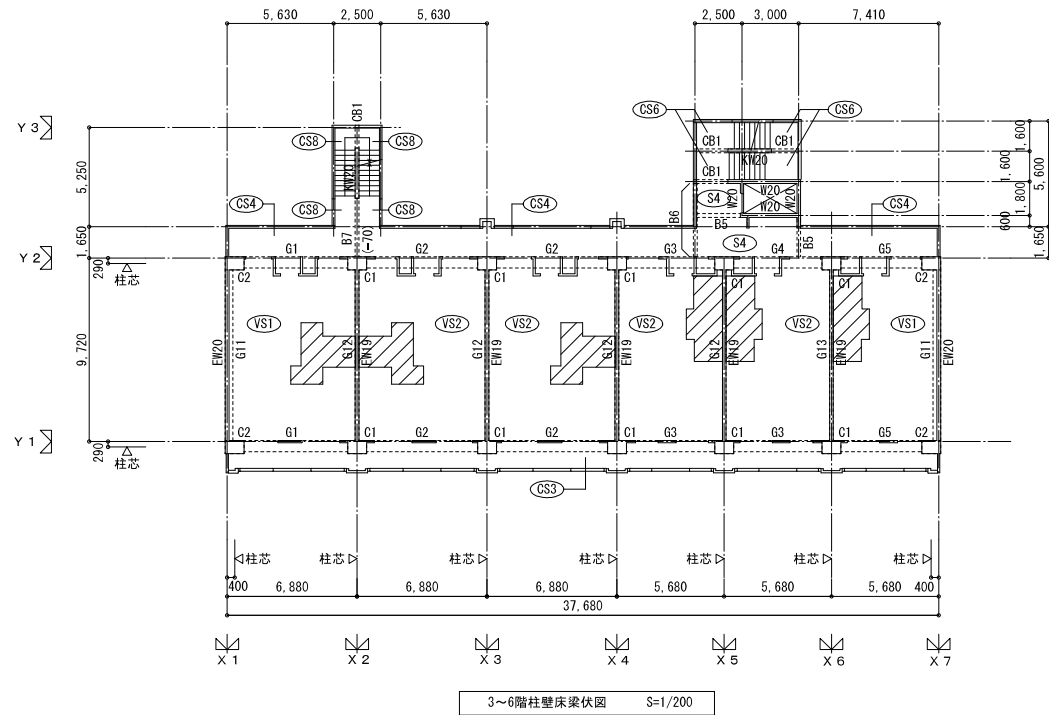
注) 特記なき限り下記とする。

1. スラブ天端及び土間コンクリート天端は意匠図による。



- 注) 特記なき限り下記とする。
- 杭天端はZ0-2300とする。
 - Z1=Z0+400とする。
 - スラブ天端はZ1±0とする。
 - < >内数値はスラブ天端レベル(Z1基準)を示す。
 - 斜線は、土間コンクリート範囲を示す。(ピット部天端Z0-800) (t=120, D10@200シングルクロス)※スロープ部は意匠図による。
 - 斜線は、スラブ天端Zn-100を示す。
 - 基礎梁天端はZ0+200とする。
 - ()内数値は、基礎梁天端レベル(Z1基準)を示す。
 - 壁はW12とする。
 - ⊗は人入口(Φ600)を示す。
 - ⊗はピット範囲を示す。
 - Y2通G梁直上のW12において、G梁と直交するW12壁下端は水平スリットを設置すること。
 - Y2通/X5軸C1柱に接続するW12壁には、柱際に鉛直スリットを設置すること。
 - 試験杭の位置・本数は監督職員の指示による。

株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	伏図 (杭・基礎・1階)	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	No.S12
検 図	製 図	設 計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



- 注) 特記なき限り下記とする。
1. スラブ天端はZn±0とする。
 2. RFスラブ天端は意匠図による。
 3. < >内数値はスラブ天端レベル (Zn基準) を示す。
 4. は、スラブ天端Zn-100を示す。
 5. ↑ はスラブの主筋方向を示す。
 6. 梁天端はZn±0とする。
RG1, RG2, RG3梁天端レベルはZR-200とする。
RG4, RG5, B1梁天端レベルは意匠図による。
 7. ()内数値は梁天端レベル (Zn基準) を示す。
 8. 壁はW12とする。
 9. 基準階階段室・EVホールにスラブ天端は意匠図による。
 10. ○・oA, ○・oBはスリーブを示す。
 11. Y2通G梁直上のW12において、G梁と直交するW12壁下端は水平スリットを設置すること。
 12. Y2通/X5軸C1柱に接続するW12壁には柱際に鉛直スリットを設置すること。

株式会社 E R C デザイン		株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦		一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦		伏図 (2階~R階)		縮尺 A1 : 1/200 A3 : 1/400
検	製	設		平成29年 3月		No.S13
愛知県建設部建築局公営住宅課						